

7 その他

(1) 飼料用イネおよび麦類における使用農薬

① 飼料用イネの防除

飼料用イネの農薬使用においては、地域の二毛作栽培に適した品種の中で、抵抗性品種の導入や病虫害発生予察を考慮して的確な防除対策を基本とし、発生状況を的確に把握して必要最小限の防除に務める。

直播栽培においては雑草防除が重要であることから、直播栽培に適用があり、①登録時のデータから、稲わらへの残留性が十分に低いことが認められている農薬、②平成15年以降に実施したWCS用イネでの残留性がないと確認されている農薬を用いる(表7-1)。特に乾田直播栽培は雑草が繁茂しやすいことから、初期の雑草防除が重要である。その他、農薬使用にあたっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に記載された農薬の種類・使用方法に準じること。

表 7-1 飼料用イネの直播栽培に適用できる除草剤

農薬の種類	主な商品名
イマゾスルフロン・エトベンザニド・ダイムロン粒剤	キックバイ1キロ粒剤
オキサジクロメホン・クロメプロップ・ペンシルフロンメチル水和剤	ミスターホームランフロアブル、ミスターホームランLフロアブル
グリホサートアンモニウム塩液剤	ラウンドアップハイロード液剤
グリホサートイソプロピルアミン塩液剤	カルナクス、草枯らしMIC、グリホス、三共の草枯らし、ラウンドアップ
グリホサートカリウム塩液剤 (水田畦畔での使用は除く)	タッチダウンIQ(播種後に使用する場合は不耕起乾田直播のみ)、ラウンドアップマックスロード
シハロホップブチル乳剤	クリンチャーEW
シハロホップブチル粒剤	クリンチャー1キロ粒剤
シハロホップブチル・ピラゾスルフロンエチル・メフェナセット粒剤	リボルバー1キロ粒剤
シハロホップブチル・ペンタゾン液剤	クリンチャーバスME液剤
ダイムロン・ペンシルフロンメチル・メフェナセット粒剤	ザークD1キロ粒剤51
トリフルラリン乳剤	トレファノサイド乳剤
トリフルラリン粒剤	トレファノサイド粒剤2.5
ビスピリバクナトリウム塩液剤	ノミー液剤
ピラゾキシフェン粒剤	バイサー粒剤
ピラゾスルフロンエチル・フェントラザミド粒剤	ダブルスター1キロ粒剤
ピラズレート粒剤	サンバード粒剤
ピリミノバクメチル・ペンシルフロンメチル・メフェナセット粒剤	プロスパー1キロ粒剤51
ペノキスラム水和剤	ワイドアタックSC
ペンタゾン液剤	バサグラン液剤(ナトリウム塩)

雑草防除の他に飼料用稲麦二毛作体系では、飼料用イネの単作体系よりも作期が遅くなることから、イネツトムシやフタオビコヤガ(イネアオムシ)、コブノメイガ等の虫害が発生する場合があります。いもち病や紋枯れ病等の病害の発生も懸念されるため、病虫害防除についても十分に留意する。

② 飼料用麦類の防除

飼料用麦類には使用できる農薬がないため、赤かび病の発生前に収穫することが重要である。また、雑草防除においては、化学的防除以外に耕起、播種時期、播種密度、作付体系などを組み合わせた耕種防除に努める。

(3) 執筆者・編集者一覧

① 執筆者

荒木 利幸	宮城県畜産試験場
出岡 裕哉	三重県農業研究所
浦川 修司	(独)農研機構・畜産草地研究所
柿原 孝彦	福岡県農業総合試験場
河田 尚之	(独)農研機構・九州沖縄農業研究センター
川原田 直也	三重県農業研究所
川村 淳也	三重県畜産研究所
小荒井 晃	(独)農研機構・九州沖縄農業研究センター
佐田 竜一	栃木県畜産酪農研究センター
佐藤 節郎	(独)農研機構・畜産草地研究所
関矢 博幸	(独)農研機構・東北農業研究センター
都丸 友久	群馬県畜産試験場
中野 洋	(独)農研機構・作物研究所
中山 幸則	三重県農業研究所
横澤 将美	群馬県畜産試験場
星 信幸	宮城県古川農業試験場
宮川 創	福岡県農業総合試験場
山本 泰也	三重県畜産研究所

(独)農研機構:独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

② 編集者

大同 久明	(独)農研機構・畜産草地研究所
原田 久富美	(独)農研機構・畜産草地研究所
浦川 修司	(独)農研機構・畜産草地研究所
野中 和久	(独)農研機構・畜産草地研究所
服部 育男	(独)農研機構・九州沖縄農業研究センター
星 信幸	宮城県古川農業試験場
関矢 博幸	(独)農研機構・東北農業研究センター
横澤 将美	群馬県畜産試験場

ダイレクト収穫体系による飼料用稲麦二毛作技術マニュアル〈2013年度版〉

平成25年10月

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

お問い合わせ先

独立行政法人 農業・食品産業技術研究機構 畜産草地研究所

〒329-2793 栃木県那須塩原市千本松 768

Tel:0287-37-7803, Fax:0287-36-6629